

「教師をめざす教職ワークショップ」

心理学部 心理学科 井ノ口 淳三

1. 教師をめざす取り組み

教職課程では、教師をめざす学生への支援をこれまでさまざまな形で行ってきたが、今年度も教師をめざす学生が、教職についての具体的な活動内容に理解を深めるため、中学校や高等学校から教師を招聘し、ワークショップ型の体験的講義を行うことを計画した。これは、現在教職科目として行われている「各教科の教育法」や「教育方法論」、また教育実習の事前・事後指導を行う「教職実践研究」などの科目と有機的に関連させて、相乗的な効果を上げることを期待したものである。

今年度は、京都府立鴨沂高等学校の佐藤敏正先生に講演をしていただいた。佐藤先生は、1980年に京都府の教員に採用され、これまで京都府立の5つの高等学校で社会科（特に地理）教育を中心にした授業作りと、生徒指導の実践を行ってこられた。夜間の定時制に勤務をされたこともあり、その経歴を踏まえた講演は、受講生にとって印象深いものとなった。

今回の講演は、「現在の高校生と教師の仕事」をテーマとして2008年10月25日に実施された。その内容は、①新採時の経験、②現在の高校生の実態、③変わり行く学校と教員、などである。以下にその概要を、当日配布されたレジュメに基づいてキーワードを中心に紹介する。

2. 講演の要旨

■ 1. 自己紹介

■ 2. 高校時代と教員志望

よき友、よき教員たちとの出会い

■ 3. 新採時の経験

- (1) 希望せずに入学した生徒たち
- (2) 低い学力 いじめ 家庭崩壊 ヤンチャ 年配の生徒
- (3) 働きながら学ぶ 厳しい生活 居場所と活躍の場
- (4) 定時制の変容 不登校 進路変更
- (5) 社会科の実践 地理 世界史 政治経済

■ 4. 全日制への転勤

- (1) 日本史メインの日々 教科通信の発行

- (2) 地理は選択の関係で担当は断続的
- (3) 現代社会を初めて担当

■ 5. 現在の高校生の学力実態と授業

- (1) 基礎的事項の欠落・未定着、細い生活体験
 - ①地理：水平的（空間的）概念、世界の主要国名、首都、位置、自然、歴史
 - ②日本史：時間的概念、歴史的事象、人物、地名、因果関係
- (2) 地理 B（普通科 3 年 4 単位）の授業のこと
 - ①大切にしたいと思っていること
 - あ) 世界を知り日本を知ることの意味
 - い) 人権・民族の「ちがひ」を知ること
 - う) 相対化して観る
 - ②自然地理と世界地誌の関係
 - あ) 1 学期は自然環境
 - い) 2 学期は地誌 世界をまんべんなく学習するのではなく、「調査」・「考察」という方法で世界の一部を学習する
 - ③授業法での問題
 - あ) 地図帳のみかた
 - い) 白地図の効用
 - う) 作業学習
 - え) 板書と掛け図
 - お) 視聴覚教材
 - か) 講義と授業ノート、「当番ノート」
- (3) 生徒の「勉強」論の誤り
 - ①丸覚えで玉砕の連続
 - ②社会科＝暗記科目の呪縛
 - ③黒板写し、穴あき板書
 - ④絶滅する家庭学習
- (4) 生活と経験、ガラスのような心、怪しい友人関係、がんばれない自分

■ 6. 変わり行く学校と教員

- (1) 「教育改革」の波とその流行
- (2) 社会全体の動向に揺さぶられやすい
 - ①初任研制度、教員評価制度、学校評価制度、主幹（上級）教諭制度、教員免許更新制、民間手法の導入等

②教育理念の変容 教育基本法の「改正」

■ 7. 20年もやっている～45歳あたりからの自問自答～これでいいのか

- (1) 我流と惰性、自分流とマンネリ
- (2) 乖離する生徒と教員<自分>
- (3) 自己研鑽、教員をしている意味を問い直す
 - ①14年目のある取り組み
 - ②学び直す、育て直す、意地の決意

■ 8. 「私の仕事」であり、青年の生き方にかかわる崇高な仕事

- (1) 卒業生 N 君のこと
- (2) 卒業生 U 君のこと
- (3) 卒業生 C さんのこと
- (4) 卒業生 Y さんのこと

■ 9. いなくなった「でも」「しか」先生＝増えてきたスーパーエリート先生

- (1) 「でも」「しか」先生～『でも』生徒にとっては1人『しか』いない存在の先生～
- (2) 格差社会に生きる人間の苦しみ、悩み、迷い、足踏み、貧困、反抗に共感できる感性と経験
- (3) 競争試験化した教員採用試験
- (4) 受からなければ教員にはなれない

3. 受講生の感想から

「すごく興味深いおもしろい講演でした。私の中・高校のときは、赤い下敷きとマーカーを使って勉強していました。確かに、見て覚えるだけではテストで何の役にも立ちませんでした。また、単語だけ理解していても全体を理解していなかったのも、やはりテストには書けませんでした。そこで私が作ったのが「呪いのノート」です。見た目はすごく不気味ですが、ノートにひたすら語句とその意味を書き続けるものでした。これのおかげで覚えるべき部分は充分覚えられました。こうして自分の生徒時代を思い返すと、佐藤先生のおっしゃっていた失敗や成功をたくさんしてきたように思います。また、私は今塾のアルバイトをしているのですが、整理をして理解できる生徒が少ないです。ただ単語を覚えるだけでは意味がないということを教えるのは、とても大変なことだと思います。

佐藤先生の授業の工夫の仕方にとっても驚かされました。ノートのとり方や教え方もすごく勉強になるものばかりだったように思います。今回の講演を聴き、ますます教師になりたい、もっともっと頑張らなくてはと思いました。(心理学科2回生)」

「今日佐藤先生の話を聞いて、教師はとても良い職業と思いました。また、教師と言う職業は、けっして終わりもなく正解もないと思いました。定時制の現状を初めて聞きました。定時制は、不登校などで学校に行けなかった人がやり直す場とする生徒が多いこと、シンナーを吸った生徒に近づき、怒られたこと、宿直室でナイターを見ていた先生と、それを目撃した生徒との大論争、そして風邪で休んで大事な場面に立ち会えなかった時、「やっぱり先生もそうか」と言い消え去っていった生徒のことなど、本当に興味ある話でした。

現在の生徒の状況もいろいろ聞きました。理解するのではなく覚えるという生徒の現状もわかりました。僕達の使っていた教科書に写真が大変多かったことも、今思い出すと少し変だと思いますが、高校時代はそれが普通と思っていました。日本と世界の文化の違いを知り、日本を学ぶ、佐藤先生の授業を受けてみたいと思いました。(経済学科2回生)

4. おわりに

佐藤先生の講演要旨と受講生の感想の一部を以上に掲載した。紙幅の都合上具体的で豊富な実践例をすべて省略せざるをえなかったが、教師をめざす学生への支援の取り組みを掲載している『教職課程年報』もあわせて参照していただきたい。